

# 風の魔術師と森の預言者

(印南日高川風力発電建設をめぐる戦いの記録)

印南日高川風力発電建設を考える会 世話人 高田 有



高田 有さん

印南と日高川の町境の山に建設が計画されている風力発電施設について、低周波音問題や土砂災害の心配、自然保護などの観点から反対運動を続けている「印南日高川風力発電を考える会」の高田さんから投稿していただきました。

(この物語は限りなく事実に近い、そして日本中どこでも同じような事が起こりえるフィクションです。実在する組織や人物とは一切関係ありません。)

この世には魔術師と呼ばれる恐ろしいモノ達が増えていて、わたしの森を蝕もうとしている。この物語は魔術師から森を守ってくれた預言者たちの戦いの物語だ。わたしは誰かって？そう、わたしはこの森に代々棲んでいる生き物じゃ。人間たちはわたしの一族をクマタカと呼んでいるようじゃ。もう、わたしの仲間はこの国に2000羽もいない。絶滅危惧種と言われてから久しい

が、なあに、そんな簡単に滅亡なぞしない。わたしが棲まないような場所には魔術師どもも住めないからな。みずから犯した罪によつて、奴らはきつと滅びてしまふじやろう。

この森にあの魔術師どもがやってきたのは、去年の夏ごろだった(2022)。はじめは、わたしがただ眺めていた優しい人間かと思つたが、森の仲間のカラス達の話によると、何やら山の一番高い所に風車というものを作りたいらしい。なんのために作るのかまるで分からないがのう。ちなみにカラス達は、長い人間の近くで暮らしていたから、人間の言葉がわかると言っている。わたしよりずっと弱いくせに生意気な奴らだ。嫌と言つても森の仲間じゃ。嫌いな訳ではない。人間と一緒に暮らしているオオカミ達も人間の言葉が分かる。彼らには森の仲間とは言い難いが、そこには気のいい奴もおつて、そ

いつにも話を聞かせてもらっている。驚くべきことにオオカミたちは人間の考えている事も、すべて分かつてしまふらしい。内緒にしても無駄つてことじやな。では、ここからはカラスとオオカミ達の力を借りて森の預言者と風の魔術師の戦いを語ることにしよう。

私は母親カラスです。名前はフノリン。変な名前だけど、私のいつも遊びに行つてい山の中の一軒家の主がつけてくれた。干してあつたフノリンをプレゼントだと思つて全部食べたからフノリンなんだつて。センスないよね。ちなみに私の風切り羽は一枚だけ白いの。おしやれでしょ。魔術師たちは、去年の夏にやつてきて、野鳥調査をはじめた。それは環境アセスメントというものに必要なんだつて。その環境アセスというのは、本来、環境に影響を及ぼさないように評価し改善する物らしいけど、どうもこの国では、事業者の都合のいいようにできてくるらしい。魔術師たちはけっこう賢い。(つていひか悪知恵つて感じ?)

## 目次

風の魔術師と森の預言者 (印南日高川風力発電建設をめぐる戦いの記録) 印南日高川風力発電建設を考える会 世話人 高田 有……	1
和歌山県沖洋上風力発電計画の現状と課題 元和歌山県議会議員 楠本 文郎……	6
事業者は計画見直しの県・国の意見に真摯に対応を 白馬山脈の風力発電を考える会……	8

# わかやま住民と自治

発行/和歌山県地域・自治体問題研究所  
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号  
TEL・FAX 073-488-3127  
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2023年11月号

たとえば、この森に巨大な風力発電設備を建設するとして、まずは私達の大切な木は、ことごとく伐られてしまふ。私のお気に入りのあの松の木も切られちゃうのかしら。あの松は子育てに最高だったのに！クマタカさんのあのご夫婦もさぞかし大変でしょうね。いつも「あまり巢をつくるいい木がない」ってぼやいてたから。クマの若者は、いつも秋になってクリが食べなくなると、あの自然林を籠神からずつと歩いて来るけど、ハゲ山はなんか怖くて歩きたくないって言ってたわ。それにあそこは、ドングリがいっぱいあってイノシシ親子さんや、シカの家族、リスさんたちのみんなのレストランなのに。50年前くらいから近くのレストランはほとんど閉店してて「仕方がないからちょっと怖いけど人間が作ってくれてる、もつと下のレストランに毎日行かなくっちゃ」って言ってたわ。私たちがこんなに困ってしまうのに魔術師たちは「出来るだけ影響のないようにします」って、いつも言ってるけど本当に約束を守る

つてくれるのかしらね。そうそう、隣の山を越えてきた小鳥たちが言っていたわ。みんな山を越える時に、なんだか風車に吸い込まれるようになって、仲間が風車の羽にぶつかって、いっぱい死んじゃったって。風車の羽は飛んでいる時には全然気付かないらしい。羽の先のスピードは時速500kmくらいで、分かるわけないよね。小鳥たちはそんなに高い空を飛ぶわけじゃないから、どうしても風車の犠牲になってしまふ。風車の下には昆虫たちの死骸もものすごいらしい。シカさん達に聞いたところ、風車からいつも変な音がするので、近くには長い時間は居られないと言っていた。だんだんと頭が痛くなって、そのうちクラクラしてきて、元気がなくなってしまうらしい。人間は低周波音って呼んでいる。耳には聞こえない音が一番怖いんだって。私(フノン)は一軒家の主にその話を聞かせた。主は森の中に住んでいる。「そうか、そんな大変な事になって

いるのか。少し調べてみる」とするか」そう言って出かけて行った。それは今年(2023)の1月のことだった。主が出かけた場所は地域の集会場。そこに魔術師たちが来て説明会というものを開いた。主は家に帰ってきてからその話をしてくれた。わたしは主と一緒に暮らしているオオカミのピチコ。森の仲間は僕の事をオオカミって呼ぶけれどちよつと違う。人間は私たちの事はイヌって言うている。わたしは主の事は、森造と呼んでいる。森造はこう言った。「魔術師たちは、うちから1kmちよつとの山のとっぺんに、風力発電施設を作りたいと言ってきた。その風車は高さが180mもあって、22基建てられる。そのためには森を大規模に伐採して崖のような場所に6m幅の林道を8kmくらい作って、ヤードと呼ばれる大きな設置広場を22か所、尾根を削って作るそうだ。この家の前を一日250台ミキサー車や10tダンプが走ると言っていた。でも、環境は壊さな

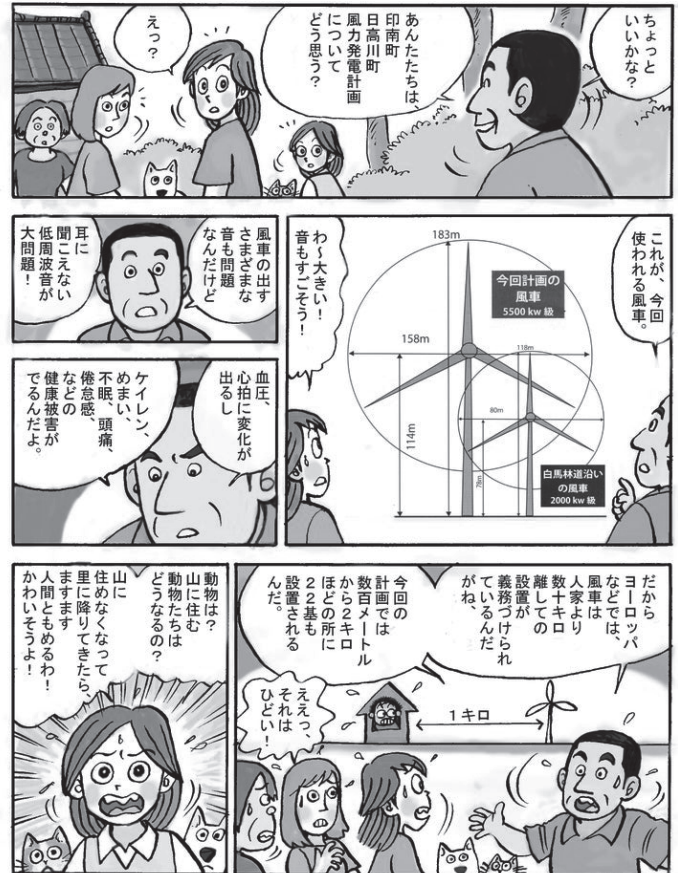
いだよ」と私は森造の頭の中は、なんでも分かる。テレパシーってやつ？おまけにその話していた場所で森造の会っていた人間の心の中まで分かっちゃった。我ながらすごい能力だと思う。森造、魔術師たちはウソをついているよ。環境を壊さないって言うてるけど、彼らはそんな事できる訳ねえだろって思っているよ。」とピチコは話しかける。もちろん心の中で。実は森造も最近ではピチコだけでなく、森の仲間の言葉が心の中で分かるようになってきた。「いやいや、魔術師たちは、もし住民の皆さん方に迷惑をかけるのなら、風力発電は作らないと言っていたけど」と森造は言った。「彼らは全然そんな事思っていないよ。この田舎者を金で釣れば、たんまり金儲けができるって笑っているよ」とピチコは言った。田舎の人間は本来お人好しなので、本当にだまされやすい。特にお年寄りには。

「ならば、どうすればいいんだ？」と森造はきいた。「みんな協力して反対すればいいのよ。私達もそうしたいけど、何しろ今は私達の言葉を分ける人間が全然いなくなっちゃったから、何にも出来ない」とピチコは悲しそうに言った。「それに魔術師は、私達動物や森の事なんか死のうが生きようがどうでもいいって、言ってるの」。「魔術師たちっていうのは、そんなに意地悪でバカなのか。森があるから自分達が生きてしまったんだな。ようし、分かった。周りの人たちに相談してみる。」そう言って森造は再び出かけて行った。それから森造は知り合いに話を聞いて回った。そんな計画は初めて聞いた、という人も大勢いた。しかし風力発電計画をよく知ると、みんな「そんな計画は絶対だめだ！」と言って署名をしてくれた。中にはお金が欲しくて署名してくれない人もいたり、「風力ができる頃には、もうこの世にはいないからどつちでもいい」と言っていた人も結構いたけど。



ともに考えよう。印南・日高川町境界への風力発電計画

作者 幸徹 (印南町在住) さん



印南日高川風力発電を考える会 HP (県会質問、「著しく適さない」知事意見書、「風車騒音による健康への影響について」講演会等) を見てください。



「そうだな、それがいいだろうな」と言って森造は署名を渡した。森造は人間の仲間と一緒に町長と話をした。

「すごく困った事が起きています。私たちの家のすぐ近くに風力発電を魔術師たちが建てようとしています。その場所は非常に急峻で、地質も脆く土砂災害の危険地区として県が指定している場所です。南海トラフの大地震や大雨で土石流の危険も非常に高まります。また大切な水

「町長に会ってきたぞ。これで大丈夫だな」と森造はピチコに言った。

「多分大丈夫だと思うけど、念のためにフノリン(ガラスです)に頼んで、遠い東の魔術師たちの国まで偵察に行ってもらおうわ」

「フノリンお願い！ちよつと魔術師の国まで飛んで行っ

それでもみんなदैいつぱいの署名を集めた。(日高川町615筆印南町461筆一次分)

帰ってきた森造は署名をピチコに見せて

「ほーら、こんなにいっぱい署名が集まったぞ。これからどうすればいいんだ？」と言った。

「町には町長さんっているでしょ。その人はみんなが幸せになれるようにする立派な人だっけ聞いたわ。その人に署名を渡したら魔術師たちを追い払ってくれると思うわ」

「そうだな、それがいいだろうな」と言って森造は署名を渡した。森造は署名を渡して町長のところへ出かけて行った。

その出来事は新聞に報道された。2023年4月20日のことである。

「町長に会ってきたぞ。これで大丈夫だな」と森造はピチコに言った。

「多分大丈夫だと思うけど、念のためにフノリン(ガラスです)に頼んで、遠い東の魔術師たちの国まで偵察に行ってもらおうわ」

「フノリンお願い！ちよつと魔術師の国まで飛んで行っ

て、なんて言っているのか聴いてきて！」とピチコは言った。

「ええ〜？そんなに遠くまで行ってこいだって？」とフノリンは不満顔だ。

「お願いよ！あんたたちだつて、ここに棲めなくなつたら困るでしょ。それにいつも言つてたじゃない。私たちが羽があるからどんなに遠くまでだって、一飛びだつて。」

「はいはい、分かりましたよ。まったく鳥使いが荒いんだから」

仕方ないので、フノリンはバサバサつと東の国を目指して飛ばたいていった。

3日後、やつと魔術師の国にたどり着いたフノリンは困ってしまった。

(魔術師だらけで、誰が私達の山に風車を作ろうとしている魔術師なのかしら？だれか知り合いのカラスはいないかしら)

すると、一羽のカラスが鳴いているのが聞こえた。なんだか聞いたことのある鳴き声だ。

「あれ〜フノリンじゃないか。なんでこんな所にいる

の？」とそのカラスは言った。「ああ〜やつぱり、ゴエモンだった。よかった。どうしようかと思つていたの」

「どうしたの？なんか困つた事でもあるの？」とゴエモンが聞いた。

「やつぱり知らないのね。私たちの森の危機なのよ。あなただつて、この前まで棲んでいたんだから協力してよね！」フノリンはゴエモンに強気だ。

「実はね、魔術師たちが急に私達の森に風車つていうのを作ろうとしているの。それを作ると森の仲間たちが

みんな棲めなくなつてしまふの。でも森造たちが反対運動をして止めさせようとしているから、私は大丈夫だとは

思うけど、ピチコが念のため偵察してこいって言つて、来たつて訳。」

「そうか、ピチコか。懐かしいな。いつも僕を見つけては遊ぼう、遊ぼうつて吠えていたよね。」

「懐かしがつている場合じゃないでしょ。私達の森を壊はどここにいるのか教えな

さい！」本当にフノリンはゴエモンには高飛車だ。

「分かつたよ。それでその魔術師たちの特徴は？」

「そういえば森造が、東だか西だとか言つてた。不動産つて所に住んでいるつて。」

「それつて、東横不動産の事？その魔術師ならよく知っているよ。なにしろ僕の一押しのレストランにいつも来ているから。料亭つて呼んでるらしいけど。」

「だつたら早く案内しなさいよ！」(本当にフノリンはゴエモンには…、つてもういか)

「はいはい、分かりましたですよ。ついてきて」そういつてゴエモンは飛んで行つた。

着いたのは日本建築の立派な家だつた。

「あつ！ちようど来てるよ。庭にある松の木から話し声が全部聞こえるよ」

「あんたつて、いつもそんな事してるの？暇なのね〜」

「僕の趣味です。放つておいてよ。それより今日はなんだか様子がおかしいな〜。いつもは魔術師たちはあのセン

セイにペコペコ頭を下げてへらへらしているのにな〜」

「センセイつていうなら、勉強を教えているの？」とフノリンは聞いた。

「いや、そんな風には見えないけど。お酒を飲んでんだか威張つてて、あまり立派な感じじゃないよ」

「とにかく行くわよ！」そして2羽は松の木に飛んでいった。気づかれないようにそつとフワリと。

この松からは中の様子が丸見えだ。

「センセイ！話が違つてじゃないですか！」と魔術師は言った。

「センセイがあそこはもうすでに何か所も風車が出来ていて、今まで反対運動もまったくなかつたというのであんな所に風力発電計画を立てたのに。だいたいあの場所は、

自然環境保全地域が2か所もあるし、山は崖のようだし、地層も脆すぎる。そして民家も近すぎる。我が社としてはもう撤退してもいいかと思つてます」

と魔術師はセンセイに抗議した。

「まあ、落ち着かんか。そんな条件は日本国内どこでも似たり寄つたりだ。もつと最悪の場所だつてある。ほれ、おまえらが進めている宮城県

の気仙沼だつてそうやないか。あそこは市民の森のど真ん中を突つ切るんやろ。」とセンセイは動じない。

「センセイ、最悪なのはこっちです。なにしろ米軍の飛行訓練コースの真下じゃないですか。そんな事セイセイは教えてくれなかつたですよ。米軍は飛行ルートを変更なんてしてくる訳がない。どうにもならないじゃないですか！」

するとセンセイは、うす笑いを浮かべながら言つた。

「なあ、蛇の道は蛇というやろ。今度我が国はアメリカのミサイルを爆買する事になつていいる。やつらもその恩義があるから悪いようにはせんやろ。防衛省の奴らに何の問題もありません、と言わせれば済む。それに防衛上の機密だと言えは国会でも、いくらでも言い訳ができる。まあ、



わしに任せておけ。」  
「そんなにうまくいきますかね。」と、あくまでも魔術師は不信顔だ。  
「それには、また実弾が少し必要やろうな。すぐに用意しとけ」と言ってセンセイは酒を飲みほした。  
「ワシは忙しい身やから、今日はこの辺でしまいや。また、何かあったら言うてくれ。」  
「ありがとうございます。今後もよろしくお願いいたします。」と言って魔術師は横においてあった風呂敷をさつと机のうえに差し出した。  
「センセイのお好きなお饅頭です。お土産にどうぞ」  
「おお、そこに置いとけ。後で秘書に取りにこさせるよって」  
「なあになに？お饅頭だって。私も欲しいな」とフノリンは言った。  
するとゴエモンが  
「でも、あのお饅頭はちつともいい匂いがしないんだよ。センセイは好物だって言うてるけど」と答えた。  
「人間って変な生き物ね。」

## 環境アセスメントについて

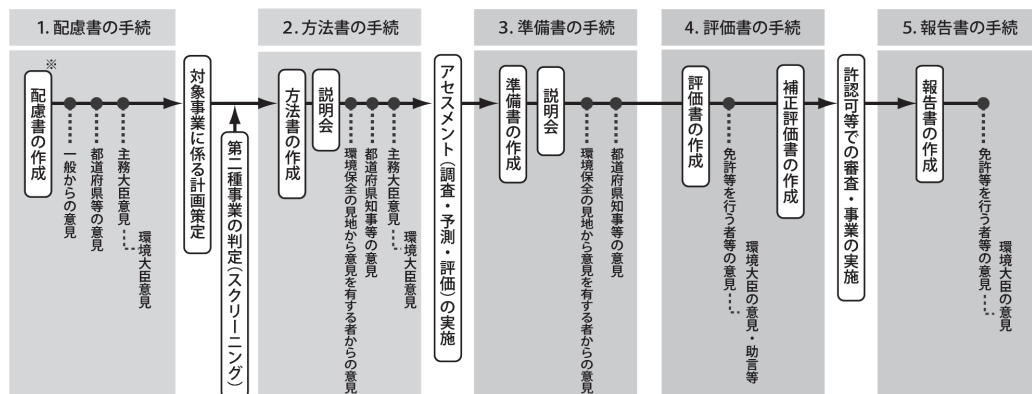
(環境影響評価情報支援ネットワークHPから要約)

環境に重大な影響を及ぼすような開発事業を行うにあたって、あらかじめ環境の保全について考えていくために生まれたのが、環境影響評価法に基づく環境アセスメント制度。

開発事業者が調査・予測・評価を行い、その結果を公表して住民、地方公共団体などから意見を聞き、それらを踏まえて環境保全の観点からより良い事業計画を作り上げて行く制度です。対象となる事業は、道路やダム、鉄道、空港、発電所など13事業で、その規模によって「第1種事業」と「第2種事業」になっています。

アセスメントの手続きは、下表のとおり、事業実施までに4段階の手続きがあります。

- ① 配慮書  
事業の検討段階で、事業の位置や規模等、環境保全に配慮する検討結果を明らかにする
- ② 方法書  
これから行う環境アセスメントの方法を伝えるもの  
(対象事業の目的及び内容、実施区域及びその周囲の概況、環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法)
- ③ 準備書  
環境アセスメントの結果を伝えるもの
- ④ 評価書  
準備書に対する意見を踏まえて、必要に応じてその内容を修正したもの



※配慮書の手続については、第2種事業では事業者が任意に実施する。

まあいいわ。魔術師があきらめていないって事がよく分かったわ。早く山に戻って森造に知らせなきゃ。じゃあね、ゴエモン。食べすぎに注意しなさいよ。あんたちよつと太りすぎ！」  
「だってここは毎日うまいものが食べ放題だし、運動もあまりしてないから…」とゴエモンが言う。  
「はいはい、そうですか。でも都会に飽きたら山に戻っておいでね、バイバイ」とフノリンは飛び去った。  
さて、その3日後、森造はフノリンからその話を聞いたのだが、どうしていいのかわからないようじゃった。  
この戦いはまだまだ続く。

# 和歌山県沖洋上風力発電計画の 現状と課題

元和歌山県議会議員 楠本文郎



楠本文郎さん

和歌山県では、洋上風力発電に適した海域と慎重となるべき海域のゾーニングを行い、自然環境や生活環境と調和した形で推進しようとしています。和歌山県沖に新たに洋上風力発電の計画が出されています。県会でこの問題を取り組んできた楠本さんに投稿いただきました。

2023年6月30日、関西電力とRWEにより、「(仮称)和歌山県沖洋上風力発電事業に係る計画段階環境配慮書」が公表され、和歌山県知事に意見が求められました。この事業計画は、和歌山県美浜町から白浜町にかけての沖合の、水深約70m〜300mの海域に、単機9,500〜20,000kW級の浮体式発電機を、50基〜110基設置して、総出力最大100万kWの洋上風力発電機施設を設置するとされているものです。「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現

を指す」とされた国の方針と、「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」(再エネ海域利用法)に則り計画されたものとしています。さらに、2021年(令和3年)3月に発表された「和歌山県洋上風力発電に係るゾーニングマップ」に基づいて計画したとも説明されています。

## ゾーニングマップとは

さて、この和歌山県による「ゾーニングマップ」は、国の補助を受けて県において3か年かけて作成されました。県によると目的は、洋上風力を進めるうえで、「事業の可能性を検討することに適した海域」と、「事業推進に慎重となるべき海域」を示す「ゾーニング」を実施するという

## この計画も

この地域には、ゾーニングマップ作成の前、2019年3月に配慮書を提出したパシフィコ・エナジー社による(仮称)和歌山西部洋上風力発電事業」計画があります。この計画は、ゾーニングマップでは保全推奨エリアに区分されます。関電計画より陸地に近く、带状のエリアで比較

な開発に対しては一定の抑止力になり、環境保全を図れる事業ならその実現の後押しにもなる、と述べられています。今回発表された関西電力による事業実施想定区域は、この県によるゾーニングマップの「調整エリア」とほぼ重なります。この「調整エリアI」は、県により「環境影響が比較的小さいと考えられるエリアで、今後、社会的事項や事業性を踏まえたうえで、事業の可能性について検討していくエリア」とされています。県の審査会でも、再三「県のゾーニングマップに基づいて計画した」と答えています。

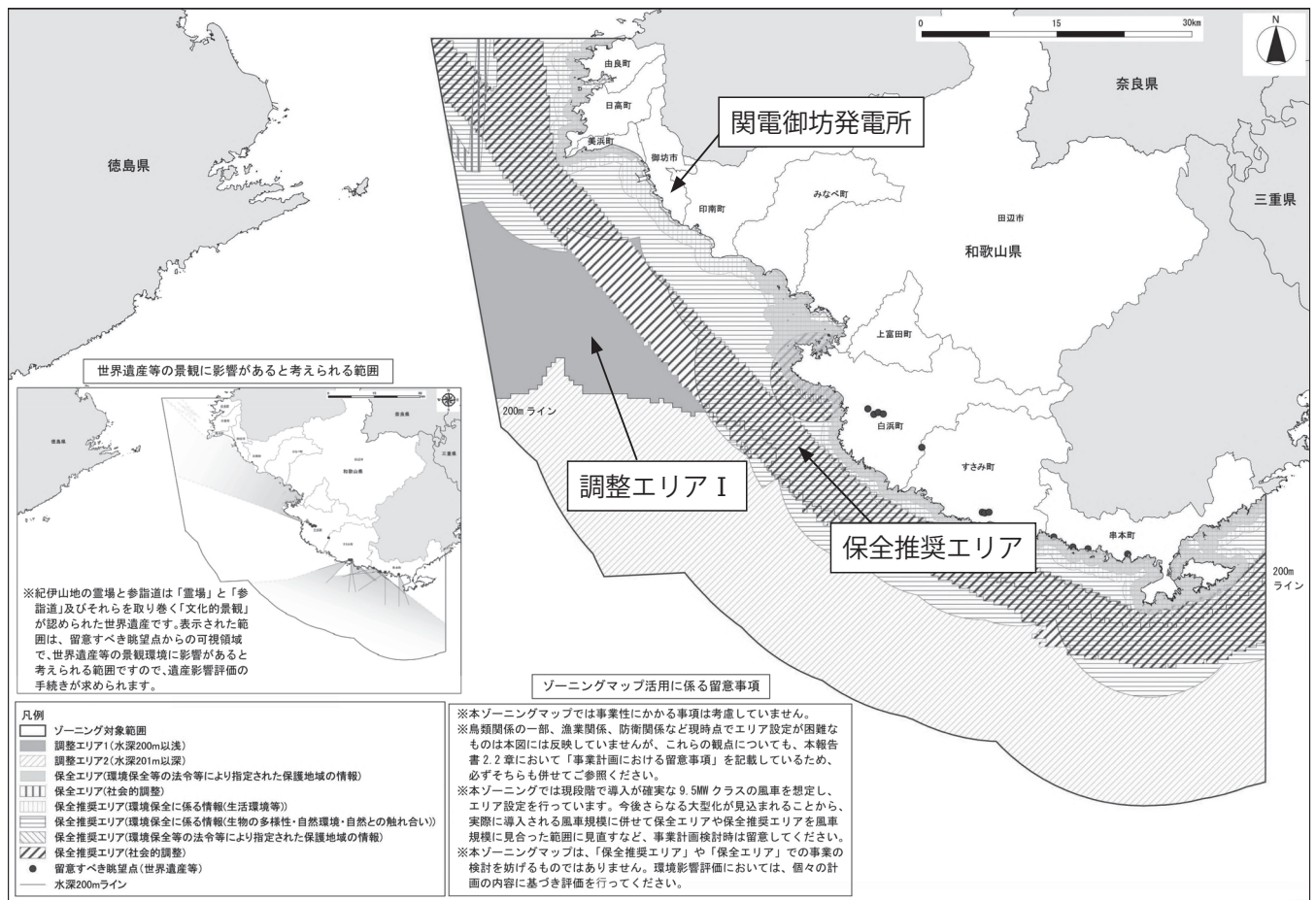
## 今後の課題と問題点

では、こうした大規模風力発電所は気候危機打開に向けてのカーボンニュートラルにどれだけ役に立つのか、逆に地球環境を守るとしながら、地域環境を壊してしまうことにならないのかを検証していく必要があります。

すでにパシフィコ・エナジー社に対しても、関電・RWEによる環境アセスの配慮書に対して、県の審査会が3回開かれてたぐさんの意見が述べられました。この審査をもとに「知事意見」も出されま

この計画は配慮書の審査後の動きもなく、県のゾーニングにより、環境保全を求めるチェックが厳しくなり、事業化は困難だと思われる。しかし、先日美浜町の漁業者に、「調査のためのブイを置かせてくれ」と申し入れがあったと聞きました。環境アセスの配慮書は終了していますから、次の方法書を準備している可能性があります。

この計画は配慮書の審査後の動きもなく、県のゾーニングにより、環境保全を求めるチェックが厳しくなり、事業化は困難だと思われる。しかし、先日美浜町の漁業者に、「調査のためのブイを置かせてくれ」と申し入れがあったと聞きました。環境アセスの配慮書は終了していますから、次の方法書を準備している可能性があります。



和歌山県作成のゾーニングマップ (2021年 3月)



関西電力・RWEによる事業実施想定区域

した。両方の知事意見ともに当然の指摘をしていますが、最大の問題は、配慮書の段階として、肝心なことはどちらの事業者も「次の方法書以降に示す」としていることです。

世界的にも、地震・津波の多発地帯に大規模な風力発電施設は作られていません。さらに陸上の風力発電と違い、洋上風力発電の場合、環境面の審査に限られる環境アセス手続きとともに、並行して「再エネ海域利用法」にもとづく別建ての手続きがあります。

関係自治体や海運業、さらに漁業者の団体など、先行した海の利用者・団体に支障がないように「協議会」がもた

れることになっていきます。協議が整えば「促進区域」として政府に指定され、この手続きは一気に進んでいくこととなります。

特に関電計画の場合、遠浅の海ではなくかなりの深さの海に、1万kW以上の風車を100基前後集積的に立地して100万kWの発電施設をつくることは異様です。それなのに、設置想定区域の中の配置や規模は未確定、「浮体式」風車の機種も定かではありません。配慮書は御坊市と印南町にしか縦覧されず、美浜町から白浜町までの他の行政区には意見も求めていません。

海は誰のものですか、日常的に海に親しみ大事にしてきた県民の意見も聞かないのは時代遅れですよ、という声を上げていかなければなりません。そのためにも、この手続きが一部の関係者だけのものにならないよう情報の公開を求めていくことも必要です。

「知らせる役割」をしっかり担っていきたくと考えています。



# 事業者は計画見直しの 県・国の意見に真摯に対応を

## 白馬山脈の風力発電を考える会

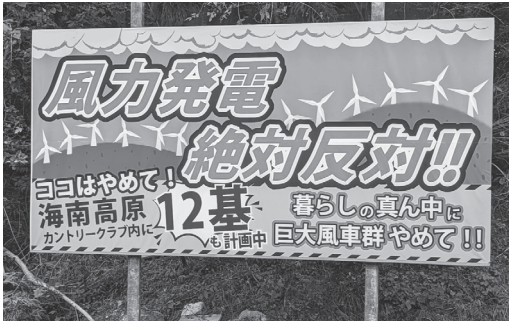
21年8月号に有田川町の風力発電反対運動の記事を載せましたが、その後の状況を「白馬山脈の風力発電を考える会」の皆さんにお聞きしました。会では、県の環境影響審査会の傍聴や県の担当課との話し合い、知事や有田川町長への要望書提出、住民ヒアリングなど取り組みを続けています。

有田川町周辺の3つの風力発電所新設計画の内、北の長峰山脈側では（仮称）有田川・海南発事業」計画があり、林地開発許可が不要な海南高原ゴルフ場に単機4,300kWの風車12基を設置する計画。地元区の反対で周辺の土地への立ち入り禁止を通告し、アセスメント調査を行わせない取り組みが続けられています（写真）。

日高川町の尾根伝いに「第2ウインドファーム事業」が4,300kW級を12基設置する計画を進めています。また、白馬山から東、護摩壇山寄りには「ドリウムウインド事業」が3,200kW級を11基設置する計画を進めています。

「第2ウインドファーム」は、対象事業実施区域の全域が保安林で、12基の風力発電施設の内1基は民家まで900mしか離れてなくて健康被害が懸念されます。3基についてはブナ林を含む天然林の育成に重要な地域であり、これら4基の計画の中止を要望しています。

また、「ドリウムウインド」に関しては、対象地域が護摩壇山周辺の特に優れた大自然のバッファゾーン（緩衝地帯）として重要な地域であり、その全域が保安林に指定されています。特定植物群落の「白馬山のブナ林」が事業区域に含まれているほか、才



反対看板（有田川町上六川）

また、「ドリウムウインド」に関して、対象地域が護摩壇山周辺の特に優れた大自然のバッファゾーン（緩衝地帯）として重要な地域であり、その全域が保安林に指定されています。特定植物群落の「白馬山のブナ林」が事業区域に含まれているほか、才

ダイガハラサンショウウオなど多くの絶滅危惧種動物の生息地で、県のレッドデータブック（絶滅のおそれのある野生生物一覧）には「生物多様性保全上注目すべき地域」と掲載され、計画は廃止するよう求めています。

事業者は県や国の意見に真摯に対応を  
県は昨年2月に知事意見書を出しました。「第2ウインドファーム」については、「貴重な自然環境や安全で快適な生活環境を損なうまで実施されるべきでなく、変更が許容される範囲を慎重に見極める必要がある。」と述べ、「ドリウムウインド」については、「事業の廃止も含めて抜本的な計画見直しが必要である」と指摘しています。経済産業大臣勧告、環境大臣意見も、いずれも知事意見書に基づいて出されています。

町や県への要望や  
要望書を提出  
6月6日には県の担当課、環境生活総務課、森林整備課健康福祉課の担当課と各地域の「考える会」と話し合いが持たれ、白馬山脈の2つの事業計画や（仮称）印南・日高川風力発電事業」について

意見交換をしました。  
また、6月23日には、岸本知事と中山有田川町長に「白馬山脈の風力発電事業計画に関する要望書」を提出、中山町長からは知事への働きかけを約束してくれました。  
岸本知事も仁坂前知事が出した「ドリウムウインド」の知事意見書の立場を引き継ぐと県議会でも表明しています。

### 風力発電設備に伴う環境影響

環境影響	要因	備考
騒音・低周波	単機の出力、基数、生活の場からの距離	環境省調査（2010年）では調査対象389件中64件で苦情が出されていた。1Km以上離れた場所でも苦情の例は見られた。
シャドーフリッカー	基数、風車の高さ、生活の場からの距離	晴天時にブレードの影が回転して地上部に明暗が生じる現象。住宅や田畑での作業時にシャドーフリッカーの範囲に入ると、影の明暗により不快感を与えることがある。
景観	基数、風車の高さ、土地改変面積、生活の場からの距離、風景資源等との位置関係	稜線や高原、海岸などに建てられることが多く、景観を損ねやすい。住宅から数百メートルの場所では圧迫感を与える。
生態系、バードストライク	土地改変面積、ブレードの回転範囲の面積、風車の高さ、風車間の距離	バードストライクは鳥類が人口構造物に激突する事故。風の通り道を利用する渡り鳥が犠牲になることが多い。

出所：自治体問題研究社「再生可能エネルギーと環境問題」著者傘木宏夫より